

日時：2023年9月13日（水）10:00～12:00

場所：神戸市役所1号館14階 大会議室

## ○議題

### (1) 第7期神戸市障がい福祉計画・第3期神戸市障がい児福祉計画成果目標案および 神戸市独自指標案について（資料7）

→事務局側より説明後、協議会で承認

#### 【主な意見】

- ・障害児支援では、教育委員会と保育所の連携について記述してもらいたい。就学相談においては、専門家の意見に流されていない、保護者の意見・意向を汲んでもらいたい。
- ・医療的ケア児に関して、看護師配置の増員や学校医の配置、家庭での配置といったことを踏まえながら計画の目標値を立ててもらいたい。
- ・施設入所者の削減目標が5%と大幅増だが、施設入所が必要な人はいる。国連から入所施設廃止の話もあるが、地域での支援体制の充実、医療と介護、障害の連携など、受け皿作りが必要。
- ・施設入所者の高齢化により、すぐに地域移行もできない。老朽化した施設の整備も課題である。
- ・計画の策定は、当事者を対象にしたアンケートも活用し、ニーズを把握して進めていただきたい。
- ・手話を言語として普及していただきたい。また、手話通訳者の仕事の場所をさらに作ってほしい。
- ・グループホームは増えているが、重度障害者の受入可能な施設は少ない。放課後等デイサービス、訪問看護ステーション、生活介護、通所サービスも同様である。実態把握と受け皿作りが必要。
- ・重度心身障がい児を支援する放課後等デイサービス事業所の確保は、計画の成果目標では「設置」となっているが、実態の把握や今後の方針も計画に加えていただきたい。
- ・次年度に、兵庫県と神戸市の共同で重度障害者のグループホームや児童発達支援の事業所の実態把握をする話もある。県と市で協力して取り組んでいただきたい。
- ・ピアサポーターの育成をする当事者の会を広める運動をしている。市としてはピアサポーターの育成についてどのように考えているか。
- ・精神障害者の家族相談が増えている。多くが施設に行くことができない、ひきこもりの方である。ひきこもりの方を家族が支える形が増加している。
- ・精神科の入院患者の高齢化が進んでいる。退院促進をして地域移行はできるのか。受入可能なグループホームはあるのか。市として実態をどのように考えているのか。
- ・精神障害者の地域移行には、地域生活の拠点、体制の整理が必要。年末年始や連休は支援が手薄になる。訪問ヘルパーや訪問看護も休日は断られることが多い。
- ・高齢で精神科の病院を退院する方は、特別養護老人ホームや養護老人ホームに入所することが増えている。治療を続け、症状をコントロールし、他の入所者と暮らすというのが現状である。
- ・障害者とその家族は、親なきあとや成年後見など様々な課題がある。それらの課題を聞きながら市の取組みについて議論していきたい。
- ・計画相談支援員の増員が計画されているが、定着が難しいと聞いている。相談員が互いに支え合い取り組めるよう、行政には相談員を守る仕組みにも取り組んでいただきたい。

## ○報告

- (1) 次期計画策定に関するヒアリングまとめ（資料2）
- (2) 神戸市地域自立支援協議会運営協議会からの意見（資料3）
- (3) 神戸市発達障害児（者）支援地域協議会からの意見（資料4）
- (4) 神戸市療育ネットワーク会議「就学前の発達の気になる子どもの支援体制検討会議」からの意見（資料5）
- (5) 神戸市療育ネットワーク会議「医療的ケア児の支援施策検討会議」からの意見（案）（資料6）

→事務局より説明

### 【主な意見】

- (1) 次期計画策定に関するヒアリングまとめ（資料2）

- ・IT化でタッチパネルが広がっているが、視覚障害者はタッチパネルが難しい。マイナンバーカードを健康保険証として使用する際、タッチパネルで暗証番号の入力ができず、代替手段の顔認証も焦点が合わず利用できない事例がある。IT化がバリアフリー化と逆行することを危惧している。
- ・グループホームでも健康保険証（マイナンバーカード）の暗証番号の管理方法に課題がある。
- ・訪問看護ステーションで重度心身障害者や障害者が対象か、ヘルパーステーションに看護師のヘルパーがいるか、保護者が個別に確認しないといけない。
- ・介護派遣事業所も含め、施設は人材確保が一番の悩みである。配置職員の定数や報酬単価が大きな問題ではないか。人材確保の方法について、市の意向を示してもらいたい。
- ・精神障害者の職場復帰は、段階を踏んでいく必要がある。
- ・当事者が気軽に相談できる居場所を作ることを提案する。また、専門的な相談員を置いた親なきあとに特化した窓口を設置していただきたい。

- (3) 神戸市発達障害児（者）支援地域協議会からの意見（資料4）

- ・発達障害のグレーゾーンで過剰な心配も多い。正しい情報を伝える仕組みを考える必要がある。
- ・社会全体で発達障害、自閉スペクトラム症、ADHDの理解が進んでいない一方、医学的な原因説明は進んでいる。
- ・災害時、発達障害や自閉スペクトラム症、ADHDの子どもの対応が一般の避難所では難しい面もある。障害児を対象とした避難所も考える必要がある。

- (4) 神戸市療育ネットワーク会議「就学前の発達の気になる子どもの支援体制検討会議」からの意見（資料5）

- ・こべっこ発達専門チームモデル事業が垂水区、西区で実施される予定だが、相談から療育センター利用までの待期期間はどれぐらい短くなる見込みなのか。